

コバノイクビゴケ *Diphyscium perminutum* Takaki

【評価理由】

本種は愛知県北設楽郡豊根村川宇連にある尹良神社（茶臼山の東麓）の境内で 1950 年 7 月 25 日に発見され、新種と認定され、植物研究雑誌に上記の学名で発表された。以後、県内では鳳来寺山、県外では数ヶ所の産地で知られているのみの稀産種である。

【形態】

日本産イクビゴケ属には 9 種が知られているが、本種は中でも最小の種であり、孢子体がなければ発見は困難である。小さいということ以外に、葉が線形で内雌苞葉も極めて小さく、縁辺は中央以上において鬚毛状に細裂するという点があり、これにより日本産イクビゴケ属の他の種から区別することができる。

【分布の概要】

【県内の分布】

前述の豊根村川宇連の他に、鳳来寺山（新城市）参道入口左側の溪流周辺の岩上から記録されているのみである。

【国内の分布】

熊本県人吉市のカナメの滝、高知県幡多郡西土佐村、鹿児島県徳之島、沖縄県石垣島等で記録されている。

【世界の分布】

日本の固有種である。

【生育地の環境／生態的特性】

生育地の一つ尹良神社の社叢は、ハナノキの群生地でも国指定の天然記念物となっている。この社叢の一角、半陰地の湿り気のある岩塊上に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

本種の実生地、尹良神社の一角にある岩は、林内の乾燥のためか、すっかり乾いており、本種も消滅した。

しかし、10 年程前に周辺林内の精密調査により、別な場所であらうじて確認された。鳳来寺山の生育地でも、最初の場所では消滅し、近傍の別な場所で再確認された。

【保全上の留意点】

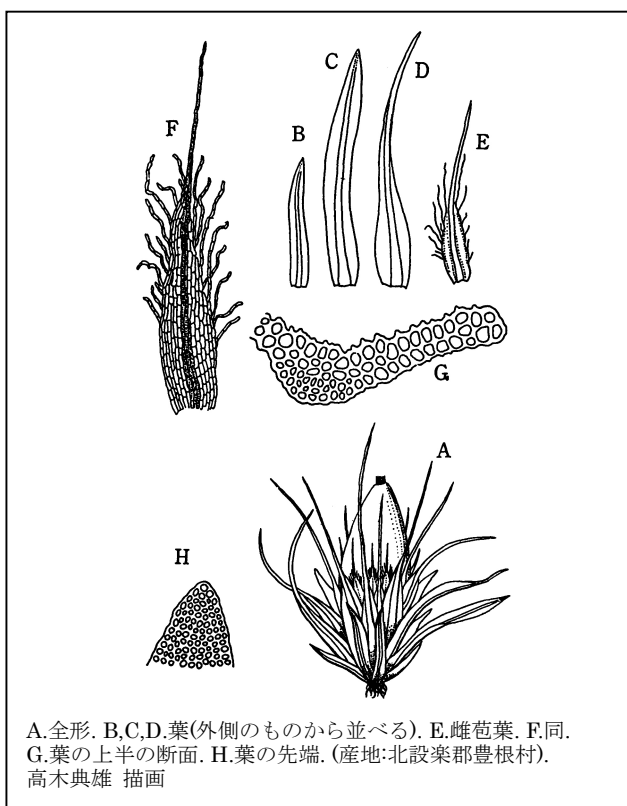
本種のような小型な種は、観賞用として採取される心配はないが、環境が変われば容易に消滅する。生育していた岩石そのものは残るにしても、周辺の伐採、道路建設などのわずかな環境変化でも消滅するため慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

本種は、北設楽郡豊根村尹良神社境内で発見された標本をタイプ標本として、高木（1950）によって新種として発表されたものである。

【引用文献】

高木典雄, 1950. 日本産蘚類植物報告(3). 植物研究雑誌, 25 (8): 25-26.



A.全形. B,C,D.葉(外側のものから並べる). E.雌苞葉. F.同.  
G.葉の上半の断面. H.葉の先端. (産地:北設楽郡豊根村).  
高木典雄 描画

県内分布図

